

けいはんな探索

精華大通りを西へ、けいはんな記念公園を過ぎると、左手にガラスに覆われたモダンな建物が姿を現す。国立国会図書館関西館である。2002年10月、関西館が開館してから6年。以来、関西学研都市の、また日本国の文化的シンボルとして、その静謐なたたずまいを見せている。

ガラスを基調としたエントランスキューブをくぐると、大階段がゆるやかに利用者を地下へと導く。図書館のメインフロアは地下1階にあるのだ。しかも、地下2階～4階の巨大な書庫も含めると、建物の80%が地下に存在する計算になるという。関西館は、地下空間の恩恵を最大限に生かした図書館なのである。

閲覧室は落ち着いた色合いの席が350席。斜面に天然の高麗芝を張った、のこぎり状の屋根からは、地下の閉塞感を払拭すべく、溢れんばかりの自然光を取り入れている。また、閲覧室の脇には、開発前の京阪奈丘陵地の森をイメージした中庭が設けられており、活字に疲れた目を休ませるのに一役買っている。

関西館はもちろん数多くの図書館サービスを提供している。だがあえて本筋を離れ、今回は、子供でも、個人でも無料で参加できる『ガイドツアー』を紹介したい。

比較的少人数を想定したガイドツアーは、普段入れない書庫中心の『書庫探検コース』と建物中心の『たてものコース』の2コースがあり、どちらも約20分の行程だ。

書庫や建物の案内は勿論、要所で職員が解説する、関西館の開館目的や、東京本館との役割分担、国立国会図書館独自の資料収集方法である『納本制度』の話なども、このツアーをより奥深いものになっている。

文化の香り漂う秋の一日、図書館を利用する合間にガイドツアーに参加して、より深く関西館に触れ、知的好奇心を満たしてみるのも悪くない。関西館だからこそ提供できる、自分にとって最適な図書館サービスを知るきっかけになるかもしれないのだから。



▲国立国会図書館 関西館



▲中庭

- ◆所在地:精華町精華台8-1-3
- ◆休館日:日曜、祝日、毎月第3水曜、年末年始
- ◆開館時間:10時～18時
- ◆ガイドツアーは土曜日には実施していません。
また、団体対応等で実施できない日もあります。
詳しくは以下にお問い合わせください。
- ◆見学・ガイドツアーのお問合せ:0774-98-1224

編集後記

けいはんな学研都市を関西経済発展のスプリングボードに。

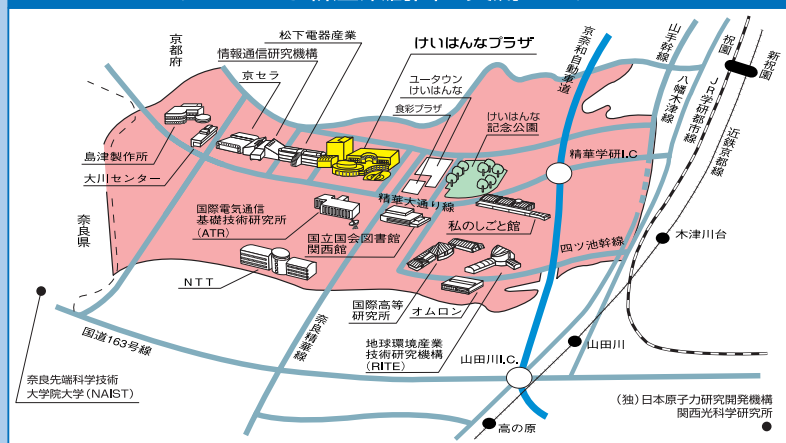
けいはんな学研都市の魅力度を高め、発展の可能性を秘めた研究開発型中小・ベンチャー企業の立地を促進し、新産業創出につなげていく。その中心となる「けいはんなプラザ・ラボ棟」には、現在約60社の中小・ベンチャー企業等が入居。日本最大級のラボ棟として、その発展が期待されています。

デファクト・スタンダードとなった商品を有し、意気軒昂なベンチャー企業。新商品の市場投入が間近で愉しみな企業。研究開発資金・事業資金に日夜ご苦労されている企業等々。一つ、一つのラボからは、入居企業の皆さんのご苦労や苛立ちとともに、今後の発展に夢を託し、独創的なアイデアが渦巻くなど、起業の第一歩をけいはんな学研都市で、との熱い思いがひしひしと伝わってきます。

そういった方々の人生を懸けた大きな夢の実現をサポートし、魅力あるけいはんな学研都市であり続けるために、新産業創出・交流センターは、これまで以上に、その機能に磨きをかけ、皆様の熱意に応えられるよう努力していききたいと思います。

けいはんなラボから、世界を動かす新たな産業の創出を。けいはんなラボから、新たな生活モデルの提案を。そんな「けいはんなラボ」を夢見て。(知)

けいはんな新産業創出・交流センター



〒619-0237
けいはんな学研都市(精華町光台1丁目7) けいはんなプラザ・ラボ棟3階
TEL : 0774-98-2230 FAX : 0774-98-2202

大阪オフィス



〒530-6691
大阪市北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル 24F
TEL : 06-6441-9213 FAX : 06-6441-9347

URL <http://keihanna.biz>

センター広報誌 けいはんなView Vol.3 2008年10月発行 編集・発行/けいはんな新産業創出・交流センター デザイン・印刷/吉岡印刷株式会社

けいはんなから新しい産業を

【寄稿】

関西経済の発展につなげるために

(社)関西経済連合会 副会長
(株)島津製作所 代表取締役会長 矢嶋英敏 氏

【注目!企業インタビュー】

サイレックス・テクノロジー株式会社

代表取締役 デヴィッド スミス 氏

【企業セミナー】

企業の知的財産戦略

【イベント報告】

けいはんなビジネスメッセ開催

入居企業紹介/ デジタルアシスト株式会社・有限会社イーダブルシステム・
MiOソニック株式会社

センターガイド/ Welcome to けいはんな ― 石臼挽き手打ち蕎麦「蕎麦人」



けいはんな新産業創出・交流センター

特集

けいはんな学研都市から
新しい健康生活文化の提案



関西の経済発展につなげるために

(社)関西経済連合会 副会長
株式会社 島津製作所
代表取締役会長 矢嶋 英敏

企業においては、持続的な成長を目指すには、イノベーションを起こし続けなければなりません。そのためには、基礎研究、実用化研究、そして事業化をバランスよく保持、発展させる必要があります。これは、そのまま日本、そして関西の経済界についても言えることで、各業界・業種におけるイノベーションが、それぞれの発展を左右する大きな要因であります。けいはんな新産業創出・交流センターは、まさしく関西経済界におけるこのイノベーション・センターとしての重要な役割を期待されているわけであります。

また、事業の活動戦略としては、永年言われ続けている研究開発と事業化のすき間、即ち「ダーウインの海」や「死の谷」を乗り越え、事業化を成功裡に導くためには、ある程度テーマの選択と集中を図り、持っている能力がうまく活用できることが重要であります。日本のような資源もなく、これから人口も減っていくような国で、日本中で同じようなテーマを追いかけ、市場の判断とか言って、それを競争によって淘汰していくのは時間もかかり効率も良くありません。また、研究開発がいくら素晴らしくても、市場を創出しなければ事業は成り立ちません。幸い、関西には医療、バイオ、半導体、環境、通信など各々の業界を代表する企業や大学が数多くあります。それぞれが持っている技術を生かし、なおかつ市場調査なども十分考慮したうえで、特徴を持った分野を立てて、すみ分けを図って進めてはどうかと考えます。そうすれば、活動ツールである人、モノ、金も集中投下できることになります。このようなすみ分けやツールの調整は大変難しいのですが、これが成果に繋がる重要なキーでもあります。

サードステージを迎えたけいはんな学研都市の一組織として、新産業創出・交流センターが前述のような活動を推進することにより、関西経済界発展の一助となることを期待致します。



新しい健康生活文化の提案

—「ユビキタス生体計測ヘルスケアデバイス・システム開発」に向けて—

7月1日にけいはんなでスタートした文部科学省の新プロジェクト「都市エリア産学官連携促進事業」は、少子・高齢化社会を迎える中、在宅健康管理に対する国民ニーズと市場ニーズを踏まえ、医・工・情の強固な連携の下、(1)妊婦見守りヘルスケアシステム、(2)泌尿器ヘルスケアシステム、(3)生活習慣病ヘルスケアシステム、を実現する無拘束・低侵襲・リアルタイムな生体計測デバイス・システムの開発を目指しています。

本日は、都市エリア事業のスタートに当たり、事業の展望や期待、そして課題についてお話をいただきました。



新プロジェクト提案の背景

千原：座談会を始めるに当たって最初に二宮事業総括から都市エリア産学官連携促進事業の概要を、三府県を代表して三田室長より自治体の取組や期待について紹介してください。

二宮：都市エリア産学官連携促進事業は、文部科学省からの3年間の委託事業であり、地域の個性を重視し、新規事業の創出、研究開発型の地域産業の育成等を行うものです。今回、関西文化学術研究都市及びその周辺エリアに立地する様々な大学・公的研

究機関と民間企業など産学官の36機関が連携して取り組みを行っています。少子・高齢化社会の国民課題に着目し、ユビキタスネットワークを活用して在宅で生体計測を行うためのデバイス・システムを開発することにより、(1)妊婦異常の早期発見、(2)泌尿器疾患の正しい診断、(3)未病期の生活習慣病予兆の発見を実現し、国民生活の安心・安全と国民の健康に寄与すると共に、ICT・ヘルスケア関連の新産業創出を目指しています。

三田：都市エリア事業に手を挙げた背景は、少子高齢化社会において、子供を安心して産める環境整備、病気をせず、健康でいきいきと暮らせる社会環境づ

くり、これらを通して次代を担う健康産業の創出を図ることです。けいはんな地域には107の研究機関が立地し、多くの要素技術が集積しています。

また、中核機関のけいはんな新産業創出・交流センターがある精華町は人口増加率が全国トップで、活力に溢れています。これら地の利を活かし、住民の目線に立った研究開発、住民参加による産業創出を期待しています。そして、全国に先駆け、健康で、安心・安全な先進モデル地域を作りたいと考えています。

千原：自治体の取り組みとして住民を積極的に巻き込む仕組みづくりを是非お願いしたいものです。本事業はユビキタス医療産業を目指すもので、既に体温計、体脂肪計、血圧計等が家庭の中に多く入り込んでいて、ある程度は自分の体の数値を簡単に知ることができます。また、最近診断の無侵襲化、治療の低侵襲化も重要です。このような背景を踏まえ、本事業に参加の平尾先生、渡辺先生はユビキタス医療にどのように対応されようとしているのかお話しいただけますか。



平尾：排尿障害を持つ人が病院で受ける検査は精神的・肉体的に苦痛を伴うものであり、また短時間の検査結果が日常生活を本当に反映しているだろうかという疑問を持っていました。会議前や夜間は尿の勢いは弱いが、ビールを飲んだら気持ちよく排尿できる人など、排尿には様々な要因が絡んでいます。こういった排尿検査を日常生活の場で数日間連続して測定していくことができれば、これまでの定説が覆る可能性もあります。今回のテーマの一つである「泌尿器ヘルスケアシステム」で、電子排尿日記や携帯式尿流量率計、さらにMEMS¹やSoC²を内蔵した超小型のカプセル型膀胱内圧センサーを開発し、蓄尿時・排尿時の膀胱圧をテレメトリー計測³する画期的な排尿機能検査法の確立を目的にしています。無拘束で長時間、苦痛なく排尿機能を検査できれば、正しい診断につながり、疾患解決の糸口になるのでは

ないかと考えています。夢を叶えてくれるパートナーを探してきましたが、今はけいはんな学研都市地域の産官学サポートに期待しています。



渡辺：私は、大学で超音波の研究開発を行っており、生体計測の非侵襲、低侵襲化を目指してきました。超音波は体内にまで入り込むので、医学応用に使われるユビキタスツールとしては有利です。これまで「医」のための工学が中心だったのですが、今は「工」無くして「医」が成り立ちません。ニュートンの万有引力の法則発見から約300年、工学技術屋は自然界の法則で使えるものは90数%以上も使ってきました。その結果、今まで知り得なかった体内の情報を得ようとしています。人間は自分自身が一番興味がありますから、自分自身の情報を持つようとしています。生体の情報計測がゲーム機に搭載され爆発的に売れているのは「工」の視点から見て「医」を進展させているのだと思います。今回、非常に微量な質量センサーと抗体の活用を組み合わせることで、生活習慣病の予兆を発見しやすいシステムができつつあり、国民の健康意識の底上げに貢献していきたいと考えています。都市エリア産学官連携促進事業はその起爆剤であり、インパクトある発展が楽しみです。

千原：学会もまさしく医用工学会から生体医工学会に変わってきております。倉智先生は、これらの変化や、その取り組みを進めるけいはんな都市エリア事業をいかに見ておられますか。

倉智：けいはんな都市エリア事業はそれぞれの先生方の長い研究が基礎になって新産業の提案を目指すものであることを知りましたが、新しい効果を生み出すときには広い視点が必要だと思います。これらの取り組みが国家の医療や安全にどう貢献し発展するのかを把握しつつ、進めていきたいと思っています。そのためには今回のプロジェクトにおいても、広い視野を持った人材を育成することもお考えいただければと思います。今回のプロジェクトである医工連

1 Micro-Electro-Mechanical Systems 微小電気機械素子及びその創製技術のこと。
2 System-on-a-chip 1つの半導体チップ上に、必要とされる一連の機能（システム）を集積する集積回路の設計手法。

3 Telemetry 遠隔測定法。テレメーター（自動計測電送装置）を使って遠隔地の測定結果をコントロールセンターに電送するもの。

携の場において他分野の人とも交流し、フレキシブルな考えを持てる人を育てる人材育成の場を設定していただきたいものです。10年たてば、18歳の人も28歳です。人材育成というのは、その効果が意外と早く出てくるものと思います。



千原：新産業創出の視点で、けいはんな学研都市は技術集積のみならず知識集積の場であって、従来知らなかった知見、広い視野を得る場であって欲しいということですね。従来のエレクトロニクス、メカトロニクスは電子工学、機械工学の学問の上にあって産業化も近かったが、「医工学」は全ての学問の場の上に立って成り立つものだが産業が無い、起業がしにくい、ベンチャーも生まれにくいという課題が続いています。西岡さんはこのあたりをどのように見られていますか。

西岡：かつて奈良に20数年住んだ者として、今回のけいはんな都市エリア事業に好感をもっています。



しかし、一方では地域だけで取り組むことによるブロス・コンスをしっかり理解しておく必要があります。例えば、技術の提供者をこの地域企業に限定して組むより、日本全国の組織や海外の組織に広げた方が開発も速く進むことは容易に想像できるでしょう。また、プロジェクトで開発されていく技術を地域に限らず、例えば東北地方で先に展開したらより早く効果が出るということもあるでしょう。そういう柔軟な発想も必要かもしれません。ベンチャーの

振興と言う観点から考えると、このプロジェクトが起こればベンチャーにもビジネスチャンスですから、自然とプロジェクトの周辺に貢献したいと言うベンチャーは出てきます。こういうプロジェクトには住民への啓発という仕事が重要だと思います。

健康医療産業の実現に向けて

千原：本事業は優しい言葉で言うと日常生活を損なわない生体計測機器を作ること、病院で測る機器やプロでないと使えない機器ではなく日常生活の中で手軽に使えるものを産業化したいというのが目的です。まさに患者中心、使う人を大事と考えています。従来の医療機器は医者が使うもので患者は被験者でしたが、今回は自分の背中を見ようというプロジェクトでもあります。課題は産業化であり、海外展開も話題になりますが、グローバルに展開するにはどうしたら良いと考えられていますか。

平尾：日本では種々の制約が厳しいことから、企業は健康産業としての血圧計などは開発するが、医療機器には関わりたくないという風潮があります。膀胱内圧センサー開発にもこれらの壁があります。国費プロジェクトでありながら、開発時間の短縮のためにまず米国FDA⁴の承認を取って、それから日本へ逆輸入せざるを得ないジレンマがあります。

倉智：日本人は完全な良い結果を求める傾向があります。ある割合で避け得ない悪い結果が出た場合でも、それを受容することが中々できない。そのため



4 Food and Drug Administration 食品医薬品局。保健福祉省に属する米国の政府機関。食品添加物の検査や取り締まり、医薬品の認可などを行う。

か、審査する側も慎重になり過ぎる傾向があり、アメリカで承認された薬でも初めてのカテゴリーのものは日本で治験を開始することさえ難しいというようがあるようです。これは、日本において、自分で善し悪しの判断を責任を持って行うことが中々難しいからだと思います。その一つの原因は、十分に訓練された人材が不足しているからだだと思います。そういう意味でも人材育成が重要であると思います。

西岡：日本の治験の仕組みの壁が急に取り除かれるとは考えられないでしょう。急激な変化の時代に対応が遅れがちな今の治験の仕組みの中でこのプロジェクトを成功させるためには、そのための方法論を持ってないといけない。例えば、体内に常駐させる膀胱内圧センサーカプセルでは治験を通すのに長年を要するのであれば、カプセルを体内に常駐させなくてもよい測定方法はないのか、少々精度が落ちても十分に実用に耐える測定方法を研究するのの一つの方法でしょう。また、どうしても長年の治験を経なければならないのなら、こうした健康問題で悩まれている患者さんたちの声を結集してマスコミに発信することを含めて、啓発活動を展開することが必要ではないでしょうか。

千原：この点は事業の戦略になっていくと思うのですが、二宮事業総括はどのように考えていますか。

二宮：情報通信や、ナノテク分野などは研究開発の出口と事業化の入口は比較的近いし、企業等ですぐ評価してもらえます。環境分野も最近、事業の出口が見えてきました。問題は今回のテーマのようなライフサイエンス分野では産業化への距離がすごく長く、未開拓課題が多く残されています。解決するためには本日ご指摘いただいた(1)人材育成、人材の輩出、(2)社会科学的アプローチ、(3)医師会や住民の連携の幅を広げる、(4)治験、薬事などの壁の打破、などを総合的に考えていかなければならないと思います。

渡辺：日本の治験は簡単には変わらない。これまでは医者と言われることだけやってきたが、それが本当に正しいのかを見直す必要があると思います。治験を必要としないゲーム機感覚で機器を造るべきで、使う人・使われる人の立場を打破すべきです。アミューズメント、漫画、メディアなどを使って底上げする時代になってきています。知的好奇心に火をつけるかが勝負だと思います。知的好奇心を盛り込んだ全体の底上げは人材育成でもあり、同志社大学においても4月からスタートした生命医科学部の一つの使命でもあるとも考えています。

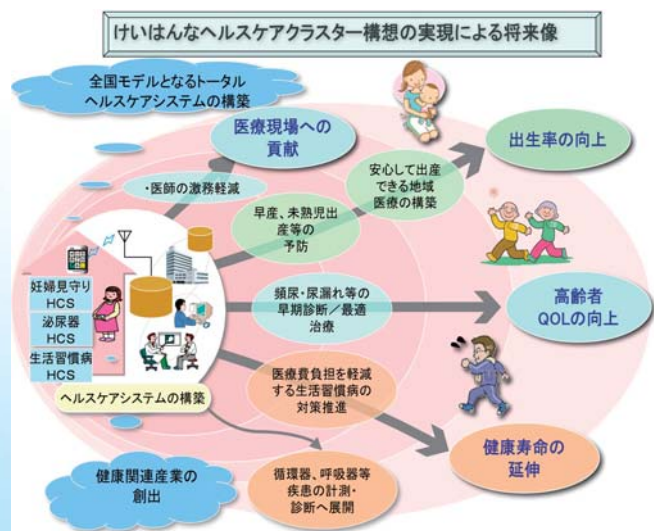


3年後の目指す姿と推進の鍵

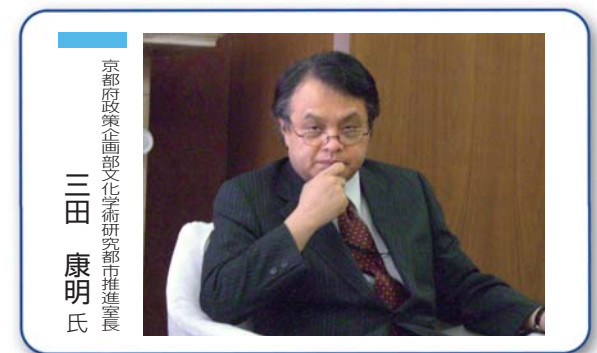
千原：人材育成を意識してけいはんな学研都市の中に受け皿作りを進め、マスメディアを通して住民に興味を持っていただくよう研究統括としても努力します。

これまで各人の夢や想いを語っていただきましたが、国費以上に地域も負担しますので、三田さんは3年後にどのような姿を期待されているのでしょうか。

三田：文部科学省に出した到達目標に加え、これと並行していろいろな健康づくりや健康セミナーを自治体として自らがやっていこうと考えています。平素から健康に関して知的興味を刺激していくことが大事で、住民の皆さんに未病期の健康に関心を持っていただき、生活を変えていこうとする意識を持っていただくことが行政のミッションと考えています。また、産業育成の点で、これまで話に出た隘路の打開とともに海外にも着目したいと思います。オムロンや京セラ、日本電産など戦後ベンチャー企業から世界に名だたる世界的企業として大きく飛躍した京都企業がありますが、もとより京都企業には旧財閥系企業は少なく、こうした京都企業の関係者



からお話を聞くと、創業間もない頃には商品を開発しても日本の大手企業では中々採用されず、やむを得ず海外へ持っていった。その結果、欧米等の海外市場で、その技術力が評価され海外企業に採用されて今日のように大きくなってきたとのことで、これが京都企業の発展モデルです。そのため京都企業の海外事業割合は全国平均より高く、また京都企業は大きくなって東京へ本社を移しません。特定分野に得意技術を集約し、経営資源を集中する京都企業が研究開発型高付加価値企業として海外で高く評価される所以です。



倉智：このプロジェクトが地域の誇りになるべきで、ここにしかない医療機器が仕上がれば素晴らしいと思います。

平尾：その意味で一番の目玉はSoCであり、超小型で超低消費電力のシステム作りに挑んでいます。幸い大阪大学、東京工業大学などの協力で開発が着実に進んでいます。今後は各種MEMSセンサーへの応用展開を図って行きます。当面は普遍的な圧、電流、音などに焦点を絞ってSoCのプラットフォーム化を進め、研究者や中小企業のひらめきを現実化させるモノ作りを目指しています。次の事業コンセプトをきっちり立てることが必要です。このSoCチップが動くことが実証できれば皆ついてくるはずで、このプロジェクトのメリットの一つに人材交流があります。開発研究に参加して交流の輪が大きく広がり、多くの異業種の方々の協力が得られています。今後は若い人を引き込んで交流をさらに進めることが重要です。広い視野を持つ医療人を育成し、けいはんな学研都市地域が育む新しい医工学で医療を根本から変えてみたい、その夢を語る場になるとうれしいですね。

二宮：確かに事業全体を含めたコンセプトが重要と考えています。コンセプトを着実に推進するためには何をどこまでやるのかのビジョンと何故やるのかのミッションの2つを明確にする必要があると思

ます。本日の議論では特にミッションの重要性を強調していただいたと思います。何故やるのかを分かり易く示し、関係者で共鳴できるレベルまで情報共有を図っていききたい。そしてメディアも使い、住民にも訴求したいと思います。

倉智：緒方洪庵が「適塾」で医療の技術教育をし、福沢諭吉、大村益次郎、橋本左内などの様々な人材が育ちました。思想教育というより、技術教育が重要ではないかと私は思っています。技術の中にある思想が自然と伝わるのではないかと思います。今、日本は何をやればよいのか分からない状況にあるように思います。明治維新では、幕藩体制という多様性を保証するシステムの中で多くの人材を輩出しました。このプロジェクトを通して若い人材育成を文部科学省と一緒にやって欲しいと思います。

西岡：本日はすごく良い議論を聞かせていただきました。特に、プロジェクトの成果を数字で短兵急に求めるのではなく地域を良くしていきたいという行政側の期待は真摯なものであり、このプロジェクトは期待できると感じました。今日お聞きした考え方でやっていただければ広い成果が出ると思います。ベンチャーキャピタルとしても、この中からベンチャーが出てくるだろうと期待できます。三府県でこういうことをやると啓発するお



手伝いを東京でやらせていただきます。

千原：海外に出て行く京都企業は東京へは行かないと話がありました。このけいはんな都市エリア事業もここにしか出来ないものにすべきと感じました。「適塾」はその後、緒方洪庵の活躍を聞いた幕府が江戸に招聘したが、緒方洪庵は光を失い健康を害して亡くなったそうです。社会に役立つ健康医療事業という目的を大切に、けいはんな学研都市でないこのプロジェクトは出来なかった、そして人も育った、として欲しいものです。本日はどうもありがとうございました。

環境プロジェクトの取組について

けいはんな新産業創出・交流センターでは、けいはんな学研都での環境プロジェクトの創出や環境産業の育成に取り組んでいます。

けいはんな環境・エネルギー研究会 発足

2008年4月26日「けいはんな環境・エネルギー研究会」が発足しました。研究会では、地元自治体等関係機関の取組とも連携し、環境・エネルギーに関する研究開発テーマの探索や、プロジェクトの創出を目指しています。けいはんな学研都市の有する研究開発力と産業支援機能を活かし、新たな「環境・エネルギー産業」の創出による持続発展可能な社会を構築するため、「エネルギー自立（自律）の地域と家と車のハイブリット空間の形成」をテーマに企業・大学・研究機関・行政機関・地域の皆様と連携し、プロジェクト創出につなげていきます。



※けいはんな環境・エネルギー研究会開催

「持続発展可能な社会基盤の形成の構想（Sustainable Urban City プロジェクト）」をメインテーマに第1回（8月8日）、第2回（9月25日）けいはんな環境・エネルギー研究会を開催しました。今後、トランスポーター分科会・太陽エネルギー高度利用分科会・バイオマスエネルギー高効率転換分科会等特定課題に応じて順次分科会を設け技術課題等について専門家を交え、系統的に検討し、プロジェクト創出に繋げていくこととしています。



※「京都産業エコ推進機構」と連携

7月29日に発足した産学官組織「京都産業エコ推進機構」のトライアル事業「地域共生型エコカーシステム研究」と連携し、自然エネルギーや蓄電・充電技術を活用した地域エコカーシステムの実現に向けた取り組みを行います。

京都産業エコ推進機構とは、京都にある産業団体や企業、大学、産業支援機関、国、京都府、京都市等が協力し、エコロジーとエコノミーの2つの「エコ」の両立を目指して、現在実施されている「企業の環境対策」や「環境をテーマとした製品開発」を推進支援していくものです。

※（株）スリーエスが実証実験開始

ゴミをエネルギーと有用炭化物（活性炭）に変身させます

けいはんな環境・エネルギー研究会の会員である（株）スリーエスが開発した「過熱水蒸気式廃棄物ガス化・炭化装置」の実証実験がけいはんな学研都市内で始まりました。

これは、過熱水蒸気を利用することでダイオキシン類を発生させず生ゴミや廃棄物等を炭化し、また、その際に発生する乾留ガスを設備の燃料として再利用する「ごみ資源化システム」です。



事務局：けいはんな新産業創出・交流センター けいはんな環境・エネルギー研究会

TEL 0774-98-2240 FAX 0774-98-2202

Mail:eco@keihanna.biz URL:http://keihanna.biz/

日中産学公連携プロジェクト2008 中国と日本の環境関連企業の取組

環境関連の中国企業と日本企業（京都及び関西）が交流し、環境関連技術（上・下水処理、汚水・汚泥処理、土壌処理、ゴミ処理、大気測定・分析、新エネルギー）等について、情報を交換するなど、けいはんな学研都市と北京市中関村科技園区との交流が活発に行われています。

※「環境・省エネ訪中ミッションin北京～西安」実施

けいはんな新産業創出・交流センターでは、京都府、ジェトロ大阪本部、京都大学、（財）関西文化学術研究都市推進機構、京都産業エコ推進機構との共催で、日中産学公連携プロジェクト2008の一環として「環境・省エネ訪中ミッションin北京～西安」を実施します。

今年度は、中国内陸部の飲用水問題解決に関する調査・研究、飲用水問題解決に係るトータルソリューションの提案、関連技術・製品の普及・技術移転を中心とするビジネスミーティング・視察、さらには、飲用水問題解決に関するテーマのほか、環境・省エネ分野に関して、陝西省内での課題解決に向けた得意技術や製品についてのプレゼンテーションやビジネスミーティングも予定しています。

※平成20年度地域間交流支援（RIT）事業に採択

けいはんな新産業創出・交流センターが提案した「関西文化学術研究都市～中国・北京市中関村科技園区（環境・省エネ関連産業）」が（独）日本貿易振興機構（ジェトロ）が実施する地域間交流支援（RIT）事業に採択されました。両地域の環境関連企業群が「環境・省エネ」分野における新産業創出を目指し、共同研究などを通じて、新たな環境技術開発、新製品の開発・事業化による環境分野での市場開拓を行います。具体的には日中双方の特性を活かせることが見込まれる太陽エネルギーの高度利用、水処理施設運営改善の分野において、日中双方の企業の利益につながる新たなビジネスモデルの構築を目指します。



2007年12月開催 環境訪日ミッション「日中環境ビジネスミーティング」

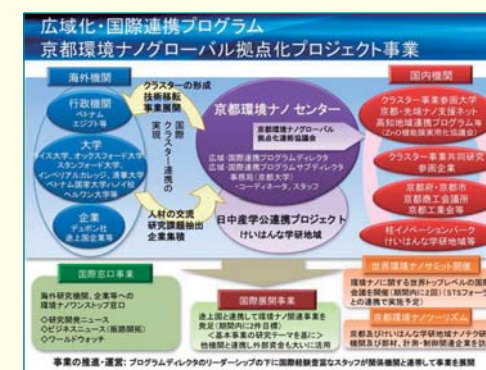
京都環境ナノクラスターけいはんな分室が設置

平成20年度の文部科学省知的クラスター創成事業（第Ⅱ期）に京都及びけいはんな学研地域から提案した京都環境ナノクラスター構想が採択され、けいはんな学研都市での事業推進拠点として、けいはんな新産業創出・交流センターに「京都環境ナノクラスターけいはんな分室」が設置されました。

同構想では、京都の強みである多数の大学・研究機関や独自の製品開発力を持つものづくり企業の集積

を活かし、ナノテクノロジーを核技術として、省資源・省エネルギーを実現する環境技術の世界拠点の形成を図ることとしています。

けいはんな分室では、科学技術コーディネーターや業務推進員等を新たに配置し、「日中産学公連携プロジェクト」の推進や、同志社大学学研都市キャンパスに新設される「微粒子科学技術研究センター」で研究が進められている次世代環境技術の実用化などを通じ、地球環境問題解決への貢献を目指します。



けいはんなから「低炭素社会」の実現を!

けいはんなから「新しい環境ビジネスモデル」を!

けいはんな学研都市を「国際環境モデル都市」に!

けいはんな国際環境ビジネスフォーラム 開催

次世代社会基盤の形成と 新たな環境・エネルギー産業創出への挑戦

2008年6月25日けいはんなプラザで、「けいはんな国際環境ビジネスフォーラム (キックオフミーティング)」を開催し、産・学・公・住、各分野から多数のご参加をいただきました。

第一部では、「情報ネットワーク技術を活用したエネルギー自立(自律)の地域と住宅と車のハイブリッド空間の形成に向けて」をテーマに公開ワークショップを行ないました。そこでは、住民参加の必要性、革新的技術開発とともに社会システムの構築が必要であり、けいはんな学研都市域を特定した取組が重要、環境教育の必要性等、多彩な意見、提案がなされました。

第二部のシンポジウムでは、(株)島津製作所 矢嶋英敏 会長の特別講演のほか、けいはんな学研都市内で検討されている精華町エコ・タウン構想などの地域の活動や太陽エネルギー利用の共同開発について事例紹介が行なわれました。これらを受け、池田順治・大阪大学先端科学イノベーションセンター特任教授が全体総括。「リビング・ラボ社会システムの構築による地球温暖化への挑戦」構想を踏まえ、住民の発意の下に、けいはんな発の特徴を盛り込んだ環境ビジネスモデルを構築したいと締めくくりました。

けいはんな学研都市から、環境・エネルギー分野の取組について、その第一歩を踏み出すことが出来ました。



京都府けいはんな
ベンチャーセンター

学研都市から羽ばたけ 輝くベンチャー



デジタルアシスト株式会社



代 表：代表取締役 鈴木 康生
所在地：〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザラボ棟4階
TEL：050-3432-9933
FAX：050-3356-7516
E-mail：info@digitalassist.co.jp
URL：http://digitalassist.co.jp/

ユーザー参加型サービスを実現

インターネットをメインテーマに新規・独自性のあるソフトウェアライブラリを研究開発し、このソフトウェアライブラリを利用したサービスを提供いたします。サービスはユーザーが工夫・創造することで、より使いやすいものにできる参加型サービスを実現します。

現在は、電子フォームとワークフロー及びWebサイト構築をSaaS/ASPサービス「SharingService.NET」として提供しています。ユーザーが本来の意味でITを使いこなせるインターネット及びユビキタス社会の実現に貢献できるようチャレンジを続けていきます。

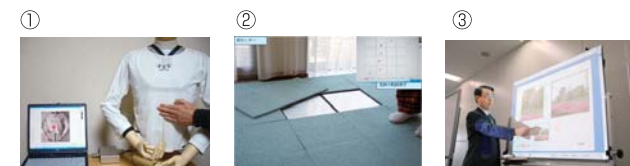
有限会社イーダブルシステム



代 表：代表取締役 森元 賢一
所在地：〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザ ラボ棟4階
TEL：050-5000-9193
E-mail：info@ewsystem.co.jp
URL：http://www.ewsystem.co.jp

触覚センサを開発しています。応用例では、

- ① ロボットの体に触れると、反応します
- ② 床を歩くと、足跡を記憶します
- ③ 白板に触れると映像が拡大します



近い将来、安全で安心な、そして簡単な操作で利用できる身近な機器に搭載されることを目指しています。

MiOソニック株式会社



代 表：八田 仁男
所在地：〒619-0237
京都府相楽郡精華町光台1-7
けいはんなプラザラボ棟6階
TEL：0774-95-5064
FAX：0774-95-5065
E-mail：info@miosonic.co.jp
URL：http://www.miosonic.co.jp

表面の汚れを確実に取れる高吸水性クロスを開発販売

従来、表面の汚れを取るクロスは色々ありましたが、マイクロファイバークロスのようなクロスには吸水性を必要としませんでした。

当社は洗車、施設、ステンレス、流し、浴槽、他業務用、家庭用として表面の汚れを取り除きながら、高い吸水性があるクロスを開発しました。これを別売品の撥水液又は除菌洗剤などと組み合わせることで使用範囲が広くなり、業務用厨房(レストラン)、ホテル、ゴルフ場、住宅メーカーに有効利用できます。今後、商品拡充(2種類の大きさ、3種類の色)して発売する予定です。

京 都 府

けいはんなベンチャーセンター 入居案内

“京都府けいはんなベンチャーセンター”は、公的機関が運営するスタートアップベンチャー向けのインキュベート施設です。低廉な価格設定と関西文化学術研究都市内に立地する優れた研究環境、「けいはんな新産業創出・交流センター」による事業支援で、入居企業の事業拡大を力強くバックアップいたします。

所在地 京都府相楽郡精華町光台1-7
ラボ棟4~6階北側

使用負担金 15,000円/月~
(1年目…傾斜家賃制) [学生特例有]
敷金・礼金・保証料なし
使用期間…3年

※入居募集の期間、入居の条件、使用負担金の詳細等については、お問い合わせください。審査の結果、ご希望に添えない場合もございますので、ご了承ください。



連絡先：けいはんな新産業創出・交流センター 事業部
TEL/0774-98-2230
E-mail/venture@keihanna.biz

サイレックス・テクノロジー 株式会社

代表取締役 デヴィッド スミス氏

プロフィール ● Profile

昭和56年 5月 アルフレッド大学
セラミックエンジニアリング学部 卒業
平成13年10月 当社入社
平成14年 3月 silex technology america, Inc. CEO (現任)
平成13年10月 silex technology europe GmbH General Manager
平成16年 3月 当社執行役
平成17年 3月 当社上席執行役 製品企画、
グローバルマーケティング、海外事業担当
平成18年 3月 当社執行役副社長
平成20年 3月 当社代表執行役社長



【けいはんな本社】
〒619-0237
京都府精華町光台二丁目3番地1
TEL : 0774-98-3781
URL : <http://www.silex.jp>
E-mail :

【東京本部】
〒108-0014
東京都港区芝5-31-19
オーエックス田町ビル3F
TEL 03-3455-2131

【事業内容】
・ プリントサーバー、デバイスサーバーを代表とするネットワーク技術を活用した周辺機器の開発を手掛ける Connectivity & Wireless Solution事業
・ 指紋解析照合技術を活用したシステムの開発を手掛ける Biometrics Authentication Solution事業

研究・開発が一体となった中堅企業に期待が集まるけいはんな学研都市の中で、ジャスダック上場の「サイレックス・テクノロジー(株)」が上場企業第1号として本社を建設した。
あらゆる機器を結ぶネットワークテクノロジーを推進する新進気鋭の有望企業として注目を浴びている。

“組み込み技術におけるグローバルリーダー”として

オフィスに何台、何十台とあるパソコン。それに比べてプリンターは一台か、あってもせいぜい数台程度というのが一般的。多くのパソコンが限られたプリンターにアクセスし、いとも簡単に出力できるのは、同社が国内で初めて開発したプリントサーバー技術のおかげである。プリンターをLANに結ぶテクノロジーの勝利であった。

1973年、東大阪で創業した同社(当時 タスサービス(株) のちに日本コンピューター工業(株))が、ネットワーク技術を研究・開発して送り出した外付けのプリントサーバーが草分け。その後、商品の内蔵化を進め1990年後半から国内のプリンターメーカーから、アメリカ、ヨーロッパへの輸出と販路を徐々に拡大。最近では京セラミタ(株)といった大手メーカーにOEM(相手先ブランド供給)提供、ハードウェア・ソフトウェア・ロイヤリティ販売と着々と地歩を固めている。デヴィッド スミス取締役兼代表執行役社長は「我々の技術は当初からイーサネット(LANの通信規格)の上に沿って進めている。市場開拓や技術投資など新製品開発にはネットワークテクノロジーの研究やOEMで培った知識・経験やノウハウの蓄積が必要だった」と振り返る。こうしたプリントサーバーの開発を通して同社が得た結論がネットワークテクノロジーの構築であり、次の商品開発へのステップへと繋がっていく。

「時間と距離を超えた」利便性を追求したい。スミス社長自ら「うちの会社は繋ぎ屋かな・・・“When it absolutely has to connect”(機器と機器をつなぐときにはいつでもサイレックス・テクノロジーに相談してください)」と例えるように、同社の究極の目標はパソコンの周辺機器をはじめあらゆる電子機器を繋ぎ、ネットワーク化を図ること。それにより使い勝手はもっと便利になり、新しいビジネスチャンスも期待出来るという。

今、アメリカのサッカーママ(サッカーをする子供がいる家庭の母親)の間では、パソコンとミシンをUSBデバイスサーバーで繋ぎ、例えばあらかじめ入力されたディズニーのキャラクターをパソコンからミシンに直接ダウンロードし、子供たちのウェアに刺繍するのがやりだと言う。これにはロゴ、写真、デザインなどあらゆるものが対象となっており需要のすそ野は広がる。

また、オフィスが電子化されても増え続ける紙のヤマ。どこの企業も対策に迫られているが、同社の技術を使えばスキャナーをネットワーク化することで、電子化された各種業務文書データを一括管理し、



ペーパーレスにより保管場所を大幅削減させることも可能になる。こうした技術の応用分野は、電子秤(はかり)などの各種計測機器、医療機器へと広がりをみせている。特に医療機器への応用は最近の無線デバイスサーバーの投入により、年率30%の高い伸びを示している。

こうした中で今、最も注目されているのがUSBデバイスサーバーというネットワーク化の切り札商品。スキャナー・デジカメ・カードリーダー・ハードディスクなどパソコンのUSB周辺機器をLANと結ぶ製品である。顧客のニーズを的確に掘り起こし、商品化へ結び付けるには、「営業+PM(プロダクトマネ

ージャー) +エンジニア」の三位一体が欠かせないとスミス社長。無線技術が先行している中で、商品の小型化・モバイル化も重要な戦略。今後、医療・計測・産業機器・家庭用民生機器へと商品開発は留まるところを知らない。従業員数はグループ全体で現在約200人、売上高60億円弱と中堅だが、数年後には年商100億円を目標に掲げている。

主力のネットワーク事業と併せて指紋認証装置も同社の特徴。指紋を高い精度で読み取り、ICカードに指紋データを保存する指紋認証装置は高いセキュリティの保持に成果を上げているという。

MVDSに代表される高画質な動画を無線で同時に複数モニターへ送信するシステムは、今話題のデジタルサイネージ(大型液晶モニターなどを利用した電子広告)分野からも注目されている。



こうした高い技術の集積が認められて同社は現在、ネオクラスター推進共同体と大阪商工会議所が連携し推進する「情報家電ビジネスパートナーズ」の提案受け入れ企業の一員となっている。関西の中小・ベンチャー企業の技術や製品を大手企業や大学に繋ぐ橋渡し役だ。大手電機メーカーに交じって数少ない中堅企業からの仲間入りだ。宮本裕明・執行役研究開発本部長は「まだベンチャー企業の数社からの提案しか無いが、弊社の持つネットワーク技術をビジネスに活かしてあげたい。最近、けいはんな学研都市の大手企業研究所と人的・情報ネットワークが次第に出来つつあり、是非とも地の利を活かしたビジネスを展開したい」と期待する。

2008年度、日経ニューオフィス賞で「近畿ニューオフィス推進賞」を受賞した『けいはんな本社』は生産設備があるとは思えない美しい外観と自然環境。本社ビルは窓を大きく配置、外光を多く採り入れるデザインが目立つ。「シリコンバレーのようにオフィスもオープンな雰囲気に」とトップの意向で、新社屋建設に当たっては社員が実際にアメリカ現地で調査し、設計に反映させた。生産設備でも、いち早く環境対策に乗り出した。製造に使う有害物質の鉛はんだを除去したほか、サーバーの省エネ・消費電力の削減等あらゆる分野で環境対策の目標値を定め、進めている。

社員が大勢働く業務フロアにはゴミ箱が一つも置かれていない。社内の決められた場所に、それぞれ分別方式で社員自らゴミを捨てる決まり。「けいはんな本社を含め、他の事業所でも全て徹底しています」と広報担当者は胸を張る。



東大阪に分散していた施設(研究開発・生産・管理)の生産力増強と、機能の集約を計画していたときに、研究開発にふさわしい環境とコストが同社の戦略に一致したけいはんな学研都市に進出を決めた。現在は、けいはんな本社と東京本部との体制になっているが、スミス社長は「けいはんな学研都市にはイノベーションが期待出来るシリコンバレーに似た環境に期待している。顧客、海外スタッフをここへ招き、未来のハイテク技術について大いに夢を語りたい。また従業員にとってここはワーク・ライフ・バランスに適した環境だ」と話している。

社内の様子



3階まで吹き抜けになっている気持ちの良いエントランス



デスクはストレスを感じさせないゆったりしたスペースを確保している。



柔らかい日差しの下、オープンスペースで打合せ。



けいはんなから世界に発信する開発メーカーとしてがんばっています!



情報家電ビジネスパートナーズについて語る宮本執行役



Keihanna International Business Creation and Interactive Community Salon

けいはんな国際ビジネス・交流サロン

けいはんな新産業創出・交流センターの「国際ビジネス・交流サロン」では、中小・ベンチャー企業向けの海外ビジネス支援をはじめ、けいはんな学研都市で活躍される外国人研究者・起業家及びそのご家族の皆さま向けに生活サポート情報を配信しています。また、日本語の指導経験が豊富な「せいかグローバル社会を推進する会議(愛称:せいかグローバルネット)」の講師によるマン・ツー・マンレッスンも実施しておりますので是非ご利用ください。

日本語教室の概要

形式: 個人レッスン(一人につき一人の講師)、あるいは少人数制
時間: 10:00~16:30 (月~金曜)
場所: けいはんな国際ビジネス・交流サロン(けいはんなプラザ ラボ棟3階)
対象: 日本語を母国語としない方で、学習意欲のある方
費用: 無料。ただし、参加費として1,000円/6ヶ月が必要です

※見学希望者は随時受け付けています
※上記以外の時間と場所でも対応できますのでご相談下さい



問合せ先: けいはんな新産業創出・交流センター 国際交流・ビジネス交流サロン
TEL: 0774-95-5214 FAX: 0774-98-2202 mail: seika@keihanna.biz

第3回 けいはんな ビジネスメッセ開催

最先端と地場の融合 行って「ICT・ものづくり、光、

みよう!けいはんな学研都市医療、健康・福祉、環境」

2008年7月17日(木)けいはんなプラザにおいて、「けいはんなビジネスメッセ」を開催しました。

3回目の開催となる今年は、「けいはんな新産業創出・交流センター」設立3周年を記念して、「コビキタス医療機器分科会」「ミュージアム&ICT研究会」を併設するなど、盛りだくさんのプログラムを展開しました。また、新たなテーマ「ICT・ものづくり」を重点産業分野に加え、レーザー微細加工などの新しい「ものづくり」技術の機械工業への取組を紹介しました。

展示会場には、けいはんな学研都市地域をはじめ、東大阪市、八尾市など近畿圏近隣はもとより、遠く中部・北陸地方から81の企業(機関)が出展し、来場者や出展者同士活発な情報交換・ビジネス活動が展開されました。

当日は、600人を超える来場者を迎え、成功裏に終わりました。

最先端技術と地場産業が融合し、けいはんな学研都市産業の大きな飛躍が期待されます。



大阪工業大学 大学院知的財産研究科 教授 田浪 和生氏



株式会社タカコ 取締役会長 石崎 義公氏



企業の知的財産戦略

— キヤノンにおける事務機器開発と知財戦略 —



大阪工業大学大学院知的財産研究科 教授

田浪 和生 氏

Profile ●

1970年 横浜国立大学工学部卒。
同年キヤノン(株)入社、特許部門へ配属。
1989年 同社特許法務本部 特許法務企画部長。
2000年 同社知的財産法務本部 契約・渉外センター所長。
2003年 大阪工業大学 知的財産学部 助教授。
2005年 大阪工業大学 知的財産専門職大学院
知的財産研究科教授。

主な著書:「日本企業の知的財産、組織の現状と課題」(共著)
日本機械輸出組合、「誰でもわかる知的財産入門」(共著)
日本電気協会新聞部、他。

私は大学で機械工学を学び、キヤノン入社後は知財部門で特許の仕事をや約33年間してきました。最近になって、日本では知財に関して追い風が吹き、プロパテントー 知財立国 ーなどともてはやされていますが、知財部門はあくまで事業のサポート役であると考えています。

キヤノンも、もともとベンチャー企業で皆さんと同じスタートに立っていました。今でこそ、知財戦略が素晴らしいと言われているますが、まだまだやるべきことがたくさんあります。今日は、いままでの反省も含め、キヤノンが物を造り、どう知財を活用して会社の成長に役立ててきたのか、外から見たキヤノンの成長についてお話をします。

キヤノンは、1937年、カメラメーカーとして創業しました。当時、ドイツのライカという極めて有名で高価なカメラがありました。これをお手本にして日本人の手先の器用さにより安価なカメラを作って売り出したのです。その後、

カメラだけでは会社の成長は限られているので、事業の多角化を試み、最初は音の出るレコーダーを作りましたが、事業としては見事に失敗しました。

そこで、もっと本格的に事務機器の分野に進出しようと、当時の社長は「右手にカメラ、左手に事務機」を合言葉に、普通紙にコピーが撮れる複写機の開発を始めました。当時この分野では、アメリカの巨大企業ゼロックスが、鉄壁の特許網を築いて守っていました。ほかの会社は侵入できないという時代です。それにも拘わらず社長は「ゼロックスの特許は一切使わずに、複写機を開発せよ」と激を飛ばします。これを「出来ないことを言っている」と受け止めては前進はありません。社員は日夜、死に物狂いの開発努力をし、約10年間かけてなんとかゼロックスの特許の壁を乗り越えて、新しい複写機のシステムを開発し、発表するところまでこぎつけました。最初に売り出した複写機

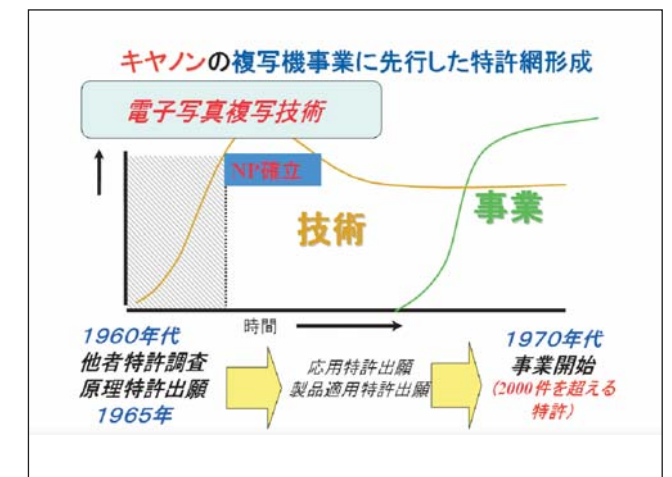
は88万円。高かったですね。ところが、その前、いよいよ事業化ということで、勇んでこの機械を発表したとたんにゼロックスの技術者が、「機械を是非見せてほしい、NDA（機密保持契約）を結ばないでできる話でいいから」と会社に来たのです。ゼロックスの技術者は巧妙に、キヤノンの社員に対し、「感光体は完成したのか、どのような仕組みか？」などと、秘密事項を聞いてくるのです。キヤノンの技術者は、秘密はしゃべるなど指示されているので答えないと、「あなた方はそんなことも知らないのか」と自尊心を傷つける質問をぶつけてくるのです。とうとう、我慢できなくなった技術者はついに機密事項までも話してしまったのです。これは失敗です。

いろいろと聞き出すことに成功したゼロックスからは、まもなく「ゼロックスの特許をキヤノンの機械は侵害している。止めなさい。」という警告状が飛んできました。このままでは、止めなければならない。これは死活問題です。社員一丸となってなんとか、ゼロックスの特許を侵害していないという論理構成と交渉に当たりました。皆さんもご存じの通り、一つの電気機械製品には、多数の特許が必要です。例えば、複写機では像を作る技術以外にも、紙送り、現像、定着、クリーニングといった技術が必要です。こういった部分についてはキヤノンも有力な特許を取っていましたので、「ゼロックスが特許を侵害していると言うならば、キヤノンの特許もゼロックスが使っているのではないのか」と言う反論ができるわけです。これを5年、6年と時間をかけて忍耐強く繰り返した結果、先方もキヤノンの独自技術を認め、最後は包括特許クロスライセンスということになりました。当時、キヤノンの開発責任者は、社内の技術者に「論文を読む暇があったら、特許を読め。論文を書く暇があったら、特許を書け!」と、激を飛ばしました。これが今に生きています。

これが、「他社特許を侵害しない独自技術開発の重要性と、自社の事業化の前にその独自技術の特許で保護することの重要性」をイヤというほど学んだ対ゼロックスとの攻防戦です。

事業を多角化しようとして、特許を構えて待っている巨大な会社の事業エリアに参入するのは極めて危険です。キヤノンの場合は結果オーライだったから良かったものの、事業撤退の可能性もあったわけです。全社員が一丸となり独自開発をし、それを特許で守り抜いたということが伝統となり、その後の様々な技術開発に活かされています。そうした技術力・特許力を背景に事業上、様々な大手会社とクロスライセンスを結ぶようになりました。

70年代以前では、売上高に対して研究開発費はわずか4%～5%くらいでしたが、このゼロックスとの攻防戦以



降、当時の社長は「世界の企業と共生するには、独自技術があつてこそだ。利益率を下げてでもいいから、売上高の2桁の数字まで研究開発投資をせなさい。イノベーションで勝負だ。」と社員を鼓舞してきました。こういった経緯を踏まえて特許をバーゲニング・パワー（交渉力）にして優れた技術を持つ企業との提携を推進するという結果になっているのです。

研究開発・事業開発・知財戦略は三位一体といいますが、まったくその通りだと思います。

キヤノンでは技術開発の源流に知財の担当者が入っている。研究開発段階から知財が一緒にやらなきゃだめだと、研究開発拠点に知財部員が張り付いているわけです。あたかも開発しているかのように同居しているのです。

また、当然ながら経営トップの方針は非常に大事です。知財を経営資源として取得・活用するというポリシーがないと下の人はどうしていいかわからない。うちの会社のポリシーは何なのかと迷ってしまうのです。ゼロックスとの攻防を通じてトップ自らも学んできたのです。

キヤノンでは、経営トップ・事業部長・知財部長が、毎日朝会でフリートークし、事業経営の諸問題について徹底したコミュニケーションを図っています。これは今でも続けられている大切な伝統です。

質問（意見交換）

企業A：自社技術を大手に買ってもらいたいと思っている。ところが大手は自社技術を大事にしているということでは、大手は外部技術は要らないということでしょうか。

田浪：他社との技術交流はたくさんやっている。大企業でも、中小企業でも、素晴らしい技術を持っているところからは、特許を購入し、外部技術も取り入れている。それが無いと開発のタイミングをつかみ損ねたりする。中小企業の方は、大企業は力があるので契約を有利に持って行かれるおそれがあるので、それに負けないように勉強して注意してほしい。

中小・ベンチャー企業支援の取組メニュー

けいはんな新産業創出・交流センターでは、

①コーディネータを中心とした販路拡大支援 ②ビジネスマッチングを目的としたフォーラム ③経営スキル向上を目指したセミナーの開催など、中小企業・ベンチャー企業の活動を支援しています。

支援活動レポート

官公需への採用促進支援メニューについて

けいはんな新産業創出・交流センターでは、中小企業・ベンチャー企業が官公需で契約実績を挙げられるよう、国や地方自治体などに働きかける、新しい支援メニュー「官公需への採用促進支援」をスタートさせました。今回は、テクノ(株)(けいはんなプラザ・ラボ棟)への支援活動をご紹介します。

テクノ(株)は、高周波混合波技術による電気治療器を企画・開発し、主に鍼灸・整骨院などへ医療機器として販売してきましたが、納入先(京都府内)は一部の民間病院にとどまり、公立病院への納入実績はこれまでありませんでした。

こうした状況の下、官公需への採用促進支援メニューの活用は、販路拡大を目指している同社にとって、非常に有効な手立てとなることが期待されることから、同メニューによる支援活動を始めました。

その結果、同社は、先頃、京都府中小企業チャレンジ・バイ制度(*)の申請資格要件である「京都府元気印中小企業」の認定を受けることができ、今後、同社の新製品について、京都府が随意契約により買い入れることができる道が開かれるとともに、京都府の低利融資等の支援策も活用することができるようになりました。

当センターでは、同制度の認定申請の支援だけでなく、同社新製品の購入先となる京都府立病院に対して、商品アピールできる機会を設けるほか、広報支援として同社新製品に関する情報をマスコミに提供し、また、地元自治体の広報誌への掲載を要望するなど、総合的な支援活動を展開してまいります。

【メディア掲載】

- ・毎日新聞(10月15日付け朝刊)
- ・京都府民だより(11月号掲載)

※ 京都府が条例認定企業等の新商品を随意契約により買い入れることができる制度。

問合せ

けいはんな新産業創出・交流センター事業部
TEL/0774-98-2230 FAX/0774-98-2202



開催予告

国際創造都市フォーラム けいはんな光医療産業バレー拠点創出シンポジウム 開催

市民公開講座「がんの予防・診断・治療」最前線!
～けいはんな学研都市とその周辺の活動を中心として～

日時:2008年11月27日(木) 10:30～17:15 (交流会 17:30～19:00)
会場:けいはんなプラザ 3階大会議室「ナイル」

参加費無料
交流会 参加費3,000円

- 10:30～ 開会式
10:45～ 基調講演
「がん診療の最前線」
山岸久一氏 京都府立医科大学 学長
11:25～ 特別講演
〈光医療産業バレー拠点創出プロジェクトからの現状報告〉
「レーザーによる粒子線生成と小型がん治療装置の開発」
河西 俊一 氏 (独)日本原子力研究開発機構
関西光科学研究所長 光医療研究連携センター長
13:00～ 講演 (6件)



2007年国際創造都市フォーラム

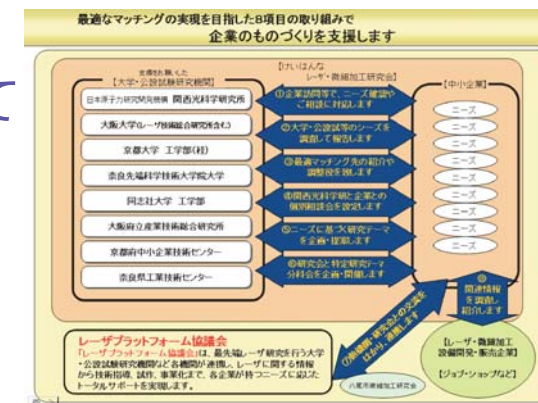
主 催/けいはんな新産業創出・交流センター、(独)日本原子力研究開発機構光医療研究連携センター、
けいはんな光医療産業バレー研究会
申込先/けいはんな新産業創出・交流センター内 けいはんな光医療産業バレー拠点創出シンポジウム事務局
TEL:0774-98-2240 FAX:0774-98-2202 URL:http://keihanna.biz

地域イノベーション創出総合支援事業 「シーズ発掘試験」に採択

(社)京都微生物研究所が提案した「食品中抗酸化性物質総量の簡易型測定器の開発」が、(独)科学技術振興機構(JST)が実施する地域イノベーション創出総合支援事業「シーズ発掘試験」(A:発掘型)に採択されました。この事業は、各種コーディネータなどが研究シーズを発掘し、その実用化を促してイノベーションの創出に繋げる事を目的とするものです。この採択を受け、(社)京都微生物研究所では、野菜や果物の生産者及び消費者が抗酸化性物質を気軽に測定できる簡便で安価な簡易型測定器の開発を目指します。健康や食の安全への関心が高まる中、食品中に含まれる抗酸化性物質が注目されていますが、測定には高価な機器を必要とすることや検査に多くの時間がかかることなどの課題を解決し、開発を進めていきます。また、この研究シーズにいち早く着目したけいはんな新産業創出・交流センターの井上コーディネータは、「抗酸化性物質量の測定値は生産者のより質の高い栽培方法の指標として、販売者には店頭表示による消費者ニーズの対応として、市場性も高く、利用価値のある製品になる」と期待を寄せています。

けいはんなレーザー・微細加工研究会の活動について

けいはんなレーザー微細加工研究会では、けいはんな地域及びその周辺エリアの研究機関が所有する先進レーザー・微細加工シーズと企業ニーズとのマッチングを図り、事業化支援を通して地域産業振興を目指しています。また、(財)関西情報・産業活性化センター「レーザープラットフォーム協議会」と密に連携し、きめ細やかな研究会活動を展開しています。



KITコミュニティ会員募集

KITコミュニティは、新事業創出を目指す企業・機関・個人で構成される『顔の見える人的ネットワーク』です。新技術・新商品の保有者、利用者、支援者の3者が連携してイノベーションを起こしていくことから、Keihanna Innovation Triangle を略して、KIT (キット) コミュニティと呼んでいます。

会員の皆様は、けいはんな学研都市とその周辺にある知・財・組織のポテンシャルを最大限に活用し、企業同士や大学等との効果的な連携を展開することにより、世界に通用する新事業が次々と創出されて行くことを期待しています。

【KITコミュニティ会員のメリット】

- コーディネータ、専門家による新事業創出支援、経営相談など
- フォーラム、展示会、センターホームページでの新技術、新商品、ビジネスプラン等の発表機会を提供
- 事業化を目指す研究会、プロジェクト活動への参画を支援
- 公的支援情報、イベント情報、ビジネス情報や会員情報などをメールで配信
- 入会金、会費等は無料



問合せ

けいはんな新産業創出・交流センター 事業部
TEL : 0774-98-2230 FAX : 0774-98-2202

エキスパート・ボランティア募集

あなたのキャリアで新事業を育てませんか！
けいはんな学研都市エリアを中心にコーディネートを行い、様々な事業化支援活動に取り組んでいただける「エキスパート・ボランティア」を募集しています。

募集要領

対象：情報通信・IT、化学、機械、材料、電気、バイオ、マーケティング、経営管理、産学連携、知財等に関する専門知識、経験をお持ちの50代～60代の方。

応募資格：パソコンをお持ちで、E-mail、インターネットを上手に使える方。月1回・大阪中之島センタービルで開催される定例会に出席できる方。

注 記：無報酬のボランティアです
(交通費等活動に伴う実費は支給。)

問 合 せ：けいはんな新産業創出・交流センター
大阪オフィス
TEL:06-6441-9213 FAX:06-6441-9347

エキスパート・ボランティア制度について

企業のOBがボランティアとして活動するエキスパート集団です。長年にわたる知識と経験、幅広い人脈を生かし、技術マッチングや販路拡大支援など、幅広いコーディネート活動に取り組んでいます。



Welcome to けいはんな

本コーナーでは、スタッフおすすめの、けいはんな学研都市の見どころ、グルメスポットを紹介します。



リポーター
大阪オフィス所属
天野 了一
愛称：あまやん

石臼挽き手打ち蕎麦 蕎麦人(そばじん)

山梨県の老舗料亭で長年日本料理の修業を積んだ横山店主が、現地の蕎麦の美味しさに魅せられ、関西の人にも本物の美味しい蕎麦を知ってほしいと、2005年12月に地元けいはんな学研都市で独立、開業したお店です。

北は北海道から南は九州まで様々な産地の国産の玄蕎麦から、季節や作柄に合わせ、時々最高のものを選び抜き、毎日その日に使う分だけ石臼で自家製粉、早朝から心をこめて手打ちする蕎麦は絶品の一言。「かえし」の醤油は、地元奈良市の老舗「向出醤油」のまろやかな2年熟成ものをぜいたくに使用。葱はご夫人の実家で無農薬有機栽培し、器は奈良に伝わる「赤膚焼」の作家、大塩昭山先生の作品が中心。

横山店主：「おもてなしの心を大切に、日々研鑽を続けています。香り豊かな挽きたて、打ち立て、茹でたての蕎麦を、落ち着きとやすらぎの空間で楽しんで下さい」



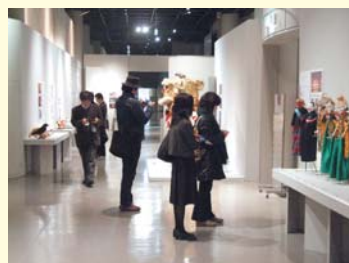
ざるそば 850円 おろしそば950円
定食1,200円 (平均予算1,000円)



【住 所】〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台4丁目45-10 ㊦あり
【電 話】0774-94-5332
【営業時間】昼11:00-14:00 夜18:00-20:00 (夜は土、日、祝営業)
【定 休 日】水曜定休
【U R L】<http://oissy.jp/sobajin/main.html>

センターイベント

ミュージアム & ICT 研究会



博物館に深く関与されている方々を全国からお招きし、様々な立場からの事例紹介や課題提起を行っていただき活発な意見交換を行い、博物館とICTシーズのマッチングによる、理想的なガイドシステムの実現を目指しています。

けいはんなシーズ紹介交流会



けいはんな学研都市の研究機関が持つ技術シーズを地域の企業に紹介し、新たなビジネスチャンスに繋げることを期待しています。

中でも、レーザー微細加工の分野については、多くの企業から注目を集めており、「けいはんなレーザー・微細加工研究会」を定期的に開催しています。

けいはんなサイエンス・カフェ

科学技術を中心に各界で活躍されている識者をゲストスピーカーに迎え、最先端の科学技術に触れつつ、和やかな雰囲気の中、参加者同士の会話が弾む異業種交流会です。



けいはんな若手研究者交流会

けいはんな学研都市に立地する企業、研究機関、大学等の若手研究者が自由闊達に意見を取り交わす交流会です。若い同年代同士、また研究者同士の一体感から、企業の垣根を超えた共同研究が生まれることを期待しています。

けいはんなTKSビジネスセミナー

事業活動を行う上で課題となる様々な事例をテーマとして開催する企業向けセミナーです。企業経営者及び担当者における経営スキル向上や企業戦略の構築を支援します。

シーズフォーラム

大学や研究機関が保有する技術シーズを、企業の担当者を前に発表するマッチング交流会です。参加企業におけるシーズ情報の収集と優れた技術シーズの早期事業化などを目的として開催しています。



ベンチャーフォーラム

新進気鋭のベンチャー企業に自社技術発表の機会を提供することで、参加企業とベンチャーキャピタル等とのビジネスマッチングを支援しています。

